

中国古典文化講座

2016
10/8 (土)

杜甫・李白を準備した時代 —初唐の詩人と作品

講師 | 道坂 昭廣 氏

京都大学大学院人間・環境学研究科教授

日時 | 2016年10月8日 (土) 午前10:00-11:30 (9:30~受付開始)

場所 | 立命館孔子学院講義室 (国際平和ミュージアム2階)

講座 概要

杜甫・李白は、中国文学で真っ先に思い浮かぶ詩人の名前ではないでしょうか。彼らが生きた時代は、文学史では盛唐と称されます。この時期は、他にも「西のかた陽関を出づれば故人無からん」の句で有名な王維や、「春眠暁を覚えず」の孟浩然など、漢文の教科書にも必ず採録されるような名作を詠った詩人が数多くいます。杜甫・李白らの才能は言うまでもありませんが、彼らはまた過去の文学を批判・継承することによって詩人となりました。別の言い方をしますと、彼らは突然現れた天才ではなく、中国文学が長い準備をかけて登場させた天才なのです。

今回、杜甫・李白の直前の時代で、杜甫の祖父杜審言らが活動した初唐という時代の詩を読みます。初唐はその前の時代である六朝から何を引き継ぎ、どのように文学を洗練させ盛唐に伝えたのか。詩の形式、友情を始めとする詩のテーマを中心に文学史における初唐という時代の意義を考えたいと思います。

講師 紹介

島根大学法文学部卒業
京都大学大学院文学研究科修士課程入学
同上修了
京都大学大学院文学研究科博士課程進学
同上中退
三重大学法文学部助教授を歴て現職

参加無料・事前申込制

※万一定員に達し、ご参加いただけない場合は事務局よりご連絡申し上げます。

